

都市と基地

市民に密着した返還運動



飛鳥田一雄

潮見俊隆<聞き手>

《2千億円の損害》

潮見 ここでは、都市と基地ということがテーマなのですが、飛鳥田市長になるべく具体的な横浜市の例をとってお話をさせていただきたいと思います。

はじめに横浜市の基地の状態について、概略のお話をお願いします。

飛鳥田 横浜市には、終戦当時にアメリカ第八軍司令部が置かれました。したがって横浜市自身には戦闘基地といわれるようなものは非常に少ないのです。終戦直後、市の中心部のほとんど4分の1を米軍に接收されて、その結果、いまでも私たちが一番困っているのは、市内いたるところ接收地であったために、そのとき都市計画ができなかったことです。たとえば、名古屋などでは、戦後の都市整備によって非常に大きな基幹道路が縦横に通じている。ところが横浜では、そういう都市計画が全然できなかった。基地と基地とのあいだにわずかにあいている土地に、みんなやむをえずバラックのような、マッチ箱のような家を建ててスタートしたわけです。そのために、都市整備という点で横浜市が全国6大都市のなかでは一番おくらしている。これが一番大きな問題です。

二番目には、都市計画ができないために、商業活動、工業活動等の経済活動が一つの方向性を持ってない。いわゆるスーベニア・ショップ<みやげもの屋>程度のチャチな形にならざるをえないということから、横浜の商工業活動の復活がかなりおくれ、朝鮮戦争以後にならざるをえなかった。

さらに財政的にいえば、いままで基地によって横浜市が一「市」です。市民じゃありません—こうむった被害が、だいたい2千億円といわれているのです。たとえば固定資産税のような、基地でなければ当然にはいるべき税金とかの、得べかりし

利益額の総計ですが、これはほんとうに概算で、精密に計算しますともっとふえるだろうと思います。

そんな状況からスタートしたのですが、第1次安保条約の締結前後、27～30年ごろまでに接收地帯の約半分以上が解除になったわけです。現在は、残っているのは23基地です。その性質はほとんど全部住宅地区、あるいはチャペルセンターなどでもう一種類は石油貯蔵庫、野戦病院、通信基地、こういった二種類に大体分かれています。そのほか、ノース・ドックといわれる埠頭を1本と、上瀬谷の通信基地などで、どれも戦闘基地ではありませんから、ベトナムの問題があったからにわかに忙しくなるということではありません。

潮見 岸根の米軍病院などは直接ベトナム戦争の影響は……。

飛鳥田 これは、あります。野戦病院ですから、戦傷病兵を厚木基地まで飛行機で持ってきて、そこからヘリコプターではこんだり、トラックで持ってきたりして入院させているようですね。

潮見 これは相当大規模なものでですか。

飛鳥田 東京の王子病院ほど大規模なものではありません。ですが、あれで2、3百ベッドがあるんじゃないでしょうか。

潮見 そういう基地の存在が現実に市民生活に及ぼす影響をお聞きしたいのですが……、たとえば基地の存在が、東京の例でいうと騒音とか汚水が流出するとか、道路の破損、その他いろいろな形で市民生活を妨害する。安保公害とか、基地公害とかいわれて問題になっているもの、そういう点はいかがですか。

飛鳥田 横浜市の問題は騒音とかの害よりも、なによりも市の発展が基地によって妨げられてしまったということですね。市街が発展していくのがそこでチェックされてしまう。そういう面で非常に困っています。もちろん岸根の軍病院などでは

傷病兵をはこぶヘリコプターの音がやかましいという点がありました。しかしこれは嚴重に申し入れをしました結果、かなり減りまして、このごろは1日1回ないのじゃないでしょうか。ここにまた、ベトナムなどからコレラとかチフスとかの伝染病を持ち込むといけないので、私どもから交渉して、米軍のほうから伝染病患者の有無を、毎日市の保健所に報告を出すことにしました。その報告によると、そういう患者がこのごろはほとんどおりません。そういうふうには、かなり注意して基地のもたらす害の除去に努力しています。

潮見 そういう市側の申入れなどに対しては、アメリカ軍はどういう反応を示すのですか。

飛鳥田 合理的な点は聞き入れますね。たとえばいまの伝染病患者はすぐこっちに通知しろというような申入れをしますと、いろいろ折衝の過程はありますけれども、最終的にはこちらのいうことを聞きます。

2———市民の具体的要求を組織する

《基地解除の横浜方式》

潮見 日本全国でいま140カ所をこえるアメリカ軍の基地があって、各所でそれに対する反対運動を起こしているわけですが、行政担当者としてどういう形で持っていったら基地をなくすることができるのか、そのへんどうお考えでしょうか。

飛鳥田 ただ、反対反対で闘争を吹っかけるというだけでは、かえって向こうをいこじにしてしまう傾きがありますね。安保条約廃棄、基地撤廃という大運動と別個に、一つの基地をなくそうとする限り、そういう傾きがあるんじゃないだろうかという気がします。ですから市民の運動と市当局の交渉とがちゃんと結合して、うまく交渉していくということが一つの手段として重要な点です。

それからもう一つは、その基地がどいたあとは市民にとってこういうりっぱな施設ができるんだ、それが市民にとって絶対に不可欠のものなんだということを、市民にはっきり示していくことが必要なんじゃないか、と私は思います。

潮見 その具体的な事例を少しお話しいただけないでしょうか。

飛鳥田 たとえば根岸の競馬場が接収解除になれば、ここにリスを放し飼いにできるような森林公園をつくる。こういうことをぼくがいますと、市民がそれはたいへんいいことだと、何十万と署名を集めて持ってくる。われわれのほうは公園計画をきちっとつくって、米軍にそれを示してこんなに大ぜいの市民がそれを期待しているんだからという交渉をします。これをつっぱねれば、今度は米軍が横浜市民からきられてしまいますよ、とせまるわけですね。

それからいま交渉中なんです、モータープールの跡に下水処理場をつくる計画を立てた。それができると約40万人を水洗便所にできる。下水処理場というのは低い場所が必要です。そこ以外ではやれないわけです。高いところでは、ポンプ・アップをしなければならないので、自然流下の点からいうとそこ以外にないんですね。そこに下水処理場をつくるという計画を発表して、政府ともどんどん交渉して財源の目鼻もついています。そうすると米軍のほうは、その場所を解除しなければ40万人の水洗化をおくらせることになりますから解除するという方向に出てくるわけです。そのかわり代替地をくれとか、いろんなことが向こうの要求に出てきますが、代替地は出しませんとつっぱねているところです。米軍にとっては、市民生活を妨げるということが一番いやなことのようですね。

潮見 代替地の問題はどうか解決するのですか。向こうの要求はどういう形ですか。

飛鳥田 どこかそれにかわるものを埠頭の付近につくればいいとってきています。政府は金を貸すから海を埋め立てればいいというのです。それをぼくらがうんといえ、あしたにでも解決しちゃうのです。ただ、ぼくはあまり海を埋めたくない。といいますのは、将来コンテナ・シップが中心になるでしょう。そうするといままでの古い埠頭を整理してかなり機械化しないと、港が使えなくなります。そのためには少しでも埋めておきますと機能障害を起こすおそれがあります。いままだ具体的に、これで危険がある、機能障害を起こすと断定できないのですが、将来を見通してみると、横浜のために埋立てをしたくないという感じで、いま断っているのです。

ただし、これらの例はいわゆる施設であって、最先端の基地の場合は、ずっとむずかしいでしょうね。沖縄の嘉手納の基地と、横浜の住宅を置いてある基地とか、ただのモータープールで自動車をとめておく場所とかでは基地の性質がちがいますから、その基地の性質によって手段は分かれてくるんじゃないでしょうか。

沖縄の場合は、全般的な政治姿勢の問題で、政治的な力関係の問題になる。

しかし横浜の場合は政治的な力関係じゃなくて、市民がいかにそこを必要とするかという、必要性の力関係になる。ですから、全体としては政治的な方向をはつきりと推し進めながら、部分的にはいまお話したようなテクニカルなやり方があるというだけじゃないでしょうか。横浜市ではそういう一つのテクニカルな方法をとっているということであって、横浜のやり方ですべてことたれりというふうにはぼくは全然思っていない。もしそれが全部であっていいというならば、それは一種の改良主義に堕します。ぼくは改良主義で安保の問題は片づかないと思うのです。全国に200基地があれば、30か50はそういうテクニカルな取り方が

できます。たまたま横浜がそういう地域だというにすぎないのであるということです。都市計画を設定しては、市民の必要性をバックに米軍と折衝して解除に持っていくというやり方は、ここだからぼくはやるんでして、よその地に行けばぼくはもっと違うやり方をすると思いますね。そして全体の安保廃棄の努力は、横浜においてもそれと並行して進めないと、一介の改良主義に終わってしまいますから、そういう努力もしなければならないと思っています。

潮見 その全体としての安保廃棄の運動、これは横浜市としてはどういうふうに展開しているのでしょうか。

飛鳥田 それは各政党の責任で、行政の責任じゃないんじゃないかといっているのですよ。ぼくも社会党員としてのぼくの責任はあります。しかし市長としては、ぼくはそのことをそうドラスティックに進める義務はないと思うのです。市民の声を集めては都市計画を立てて、基地を一つ一つ取り返していくという、具体的な行動は市長の責任ですが、安保廃棄の闘争は、政党の責任じゃないかと思えますね。もちろん、ぼくは安保反対の闘争にはいろんな形で援助して、できるだけやっています。しかし率直にいうと、その闘争の主力になろうとは考えていません。闘争の主力になることによって、ほかの部分にもものすごい影響ができてしまうのですよ。

3———本牧地区の解除に10年かかる

《解除をはばむ地位協定》

潮見 いわゆる革新市長と国との関係、いまは自民党政府ですが、革新市長になったら、市の行政が非常にやりにくいということが一般的にいわれているのですが、安保体制下の基地解除という問

題で、国と摩擦を起こすとか衝突するとか、そういう点は……。

飛鳥田 ありますね。国と、というよりも現存の法律との摩擦ですね。たとえばいまぼくが申し上げたように、都市計画を設定しては市民の必要性を集めて、返せという話をしている限り、防衛施設庁でも政府でも非常に協力的です。できるだけ取ろうというので、ぼくのいうとおりのことをやってくれます。ですが、たとえばここにある本牧地区——これは住宅地区なのですが、を返せという話をぼくは米軍とやる。いうまでもないことですが、市長としては外交権がない。だから正式折衝はできないのです。パーティーなどで、向こうの司令官に会ったりしますから、そういう親しさでどんどん話をするわけです。パーティーで話をしておいて、あとで計画を届けるとかこっちが説明に行くとか……そうすると向こうも非常にわかるのです。その結果、米軍の本牧の住宅地区を解除していいという話になったわけです。これは、米軍には理由のあることで、終戦直後に建てた住宅が非常に古くなって、改築しなければならないところに来ているわけです。もう一つは、この本牧地区に住んでいる人の4分の3ぐらいは横須賀にかよい、4分の1ぐらいは座間にかよっているんです。もとは30分で横須賀に行けたのがいまは1時間半かかる、時間をくってかなわないという話が彼らの中からも出ている。普段ぼくはパーティーなんかの話で、それがわかりますから「どうなんだ、あなた方もたいへんだらう」「そのとおりだ。それじゃーペン国務省に話してみよう」ということで、国防省なり国務省に相談して、接收解除けっこうという話になったわけです。ところがけっこうはけっこうだけれども、どっか移転をさせてくれというのです。そうしますと、ご存じのように地位協定で、そういう移転の費用は、いっさい日本政府が持つことになってい

る。ぼくは国会にいるときに、地位協定のこの条項はだめだということをずいぶんいったんですが結局いまのようにきまったでしょう。本牧地区の一角、420戸をどかせるだけで40億かかるのです。全体でその10倍ぐらいありますから、移転費が400億なんです。それで政府はいくら向こうがいいといたってだめだという。向こうは向こうでポツン、ポツンと移転させられたんじゃ、中にある映画館とか売店、ボウリング場なんかを分割しなければならぬでしょう。ですからどうせやるなら一括してやってくれ、早ければ早いほどいいというんです。それでしょうがないからぼくのほうで行って「そんなことをいってはお金がないからだめだ」「市が出せばいいじゃないか」「とんでもない、市はいままで基地があるということで、2千億から損しているんだから。法律を読んでごらん」ということで、向こうもしぶしぶそれじゃあ一角だけでも……、というのでやっと420戸の移転計画ができたんです。政府で40億計上してくれている。政府のほうは何かという半分市が持てというのです。ばかなことをいいなさんなどぼくはいうのです。せっかくこっちが全面移転の内諾をとったにもかかわらず、政府の段階で部分解除しかできないんですよ。このスピードで行くと全部が終わるまでに10年かかります。地位協定による、移転費を日本政府が負担するという規定にひっかかっちゃうわけです。そういう点で非常にぼくら困っているのですが、といって政府が予算計上をしてくれない限り進めませんし、事実40億計上してくれただけでも、事情を知っているぼくらとしては、政府としては相当思い切って出したんだと思いますからね。われわれもそこで折れざるをえないのです。そういう点で政府も、全面的な基地撤去という主張でない限りかなりの協力はしてくれています。ただし限界がある。カネを出す話になりますと渋くなっちゃうんです。自分で

そういう法律をつくっておいて、実際は何とか押しつけようという形になっているんです。

4———競馬場跡は市民の森林公園に 《解除地区の具体プラン》

潮見 もどってきた本牧地区の一画は、どう使うのですか。

飛鳥田 都市計画をぼくのほうでつくって発表しています。大体6割が政府所有地で、残り4割が個人所有地です。市はその中に一つも持っていないんです。ですからいま政府に米軍がどいたあとの国有地を横浜市によこせとっているんです。実はその6割も、個人が、終戦以来20年間も接收されているから持ち切れなくなって、政府に買ってもらっちゃった土地なんです。

潮見 個人所有地を、接收されているあいだに政府に売ってしまったわけですね。

飛鳥田 そうなんです。その人たちがいまになると返せというんです。

潮見 そうでしょうね。地価の値上がりなんか考えると。

飛鳥田 売った時は一番高いのが坪3千円です。いま評価しますと最低7万円ぐらいします。それを政府は7万円で売るといいます。ばかなことをいうな、2千億もわれわれに被害をかけておいて、そんなばかな話はない。買ったときの値段にその後の利子をつけてぼくのほうで買えばかまわんじゃないかといっているのです。個人に売りかえすとなると国有財産審議会なんかでうるさいでしょう。だから市に売りかえすというかたちにすればいい。坪7万円じゃなかったっていいじゃないか。市が国から買って、都市計画をたてて公園や遊び場や道路に使って、その残ったのをもとの所有者に返してやるといっているんです。もちろん

ん道路用地や公園敷地を取って少なくなりますから、少し高く売리카えさなければならぬんです。しかし2, 3万円で売리카えして十分やれるのです。売った人も3,000円で売ったものを3万円で買い戻すのはしゃくにさわるでしょうが、もともと自己の意志で売ったのだし、7万円との差額が戻ってくるんですから、いいと思うんです。いま交渉していますが、まだその交渉は成り立っていません。

潮見 返還される根岸競馬場あとの森林公園計画はどういう見とおしですか。聞くところによると中央競馬会が自分のほうへ返せとっているようですが。

飛鳥田 競馬会も実はあそこでやる意思はないんです。横浜競馬の開催回数の割りあてがあるので。その割りあて回数を根岸でできないからというんで、実際に中山で3回開催しているんです。中山だと収容人員が10万、こっちは2万。同じ3回を10万のところから2万のところへ戻す勇気がありますかといっているんです。売上げだって、入場料だってものすごく違いますよ。中山競馬なら、中山がやっているその従業員をそのまま使うでしょう。こっちはまた別に人件費を支出しなくちゃならない。もう一つは道路です。1万台も1万5千台も来る自動車をここでさばき切れないのです。したがって事実上、競馬は開催不能だろうと思います。これは県警なんかでもぼくらに賛成しているのです。ですが、競馬会としては横浜競馬が消滅しますと、中山で3回やる権利がなくなりますから、そういう意味で法律を改正して根岸でやらなくても横浜の割当て回数を削られないようにすれば…、ということじゃないでしょうか。

潮見 ここでも法律が一つのワクミみたいな障害になっているのですね。

飛鳥田 そうですね。1960年の行政協定なんかについて、国会でぼくが文句をいったのがいちいち

みんなぼくのいうとおりになっているんです。それで非常に困りますね。

たとえば、先ほど申し上げた根岸の病院なんかも潮見先生には釈迦に説法だけれども、NATOなんかですとドイツ国内法の定めた安全基準を下がることをえずとなっていますから、ドイツ国内法で定めた安全基準を下がっているか、下がっていないかの中に入って検査する権利があります。ところが日本じゃその点全然ノータッチですから、はたして安全基準を守っているかどうかかわからない。ですから伝染病の患者を連れてきた。どの程度の防疫をやっているんだかわからない。権利としてはいれないから、交渉ではいるほかない。向こうはある程度協力してくれて、われわれが中に入って検査することをいやがりません。また事実よくできていますよ。向こうだって文明国ですもの。〈笑〉

この前もこんなことがありました。病院のすぐ下に池がある。その池に病院で使った下水道が流れ込む。ところがその池がみんな浮き上がって死んじゃうんです。毒がはいっているんだとまわりが騒いで、ぼくら立入調査を交渉して、中に衛生関係の技師を入れて全部調査したのです。そうしたらあんまり水をきれいにしたために溶性酸素がない。それで魚が窒息して浮き上がる。向こうの衛生の関係者がトウ・マッチ・クリーン、トウ・マッチ・クリーンというんですよ。弱っちゃってね〈笑〉。こっちはグーの音も出ないんです。しかし、とにかく魚が死ぬのは困るから、下水を切りかえて一般の下水のほうへ落とすようにしましたがね。向こうは文明国だから一応のことはやっていますよ。NATO協定なみの地位協定はとりたかったんです。弾薬庫でもそうでした。池子弾薬庫なんかはたしてどの程度の安全基準を取っているのか、ぼくら自信がないんですよ。逗子の市長さんなんかしょっちゅう行って、県の商工部の

火薬取締りの技術官を中に入れて調べさせる。爆発すると困りますからね。ぼくは行っていませんが、行ってきた人の話によりますと、少なくとも日本よりいいっていいですね。

潮見 まえにうかがっておこうと思っていて忘れたんですが、国道などにおけるタンク・ローリーの問題ですが、あれは危険が大きいではありませんか。

飛鳥田 これは問題ですね。輸送がかなり多うございますから。いま事故は起きていませんが、可能性はあるわけです。この京浜港なんていう車馬織るがごときところに石油基地を置くこと自体がまちがいじゃないかとぼくは思いますね。したがってこういう問題は、500万の人口を擁する神奈川県に基地を置くべきではないという議論につながるのじゃないかと思います。

そうはいつても、日石とかアジア石油とかのタンク・ローリーも通っていますから、日本のやつはよくて向こうのはいけないというわけにもいかないでしょう。結局基地を置くかぎりには拒絶できない。基地をどこかに追い払う以外にないのじゃないかと思います。

潮見 いまままでのお話をうかがっているかぎりでは、技術的解決という点では横浜市方式をとればほかのところでもある程度までいけるといふことですね。

飛鳥田 ええ、いけるとぼくは思います。たとえば根岸の競馬場なんかでも、向こうはゴルフ場に使っていたんです。ぼくはゴルフ場に使っているのはおかしいじゃないか、それは軍事目的じゃない、あるいは軍事目的に直接からんでいないじゃないかという話を司令官にしましてね、君らがあんな広々としたところでゴルフをやっていると、横浜市民はいい顔をしないぞ、やがてアメリカと横浜市との関係は悪くなっちゃうぞという、たしかにそうだが、おれたちも司令官としてゴルフ

場をなくしてしまうわけにはいかないというんです。いいじゃないか、それではあなた方の数だけ横浜国際カントリーなり鎌倉のカントリーなりのメンバー・シップを防衛施設庁に買わせて、あなた方がそのメンバーになったらいい。そうすると5千万か6千万で解決がつくのです。そうするとおれたちはけっこうだ、そのほうが芝生の手入れなんかをしないで済んじゃうから、という話になった。それからぼくは施設庁に話をして、施設庁のほうではそれはおもしろい方法ですね、なんていうことだったんですが、大蔵省にいわせると、メンバー・シップを買ってやるという支出の方法がないというんです。支出の方法なんかあるじゃないか、米軍の人を収容してもらおうということで一部屋でも二部屋でも建増しをしたことにしてその施設の金を出すなら、いまの法律で出せるじゃないかという、そりゃあそうだなっていう話になるのですよ。そんなことから話がほぐれて、ゴルフ場の接收解除となったわけです。

ですからそういうふうに糸口をつかまえてだんだんほぐして、交渉していきますと、やれる。そういうやり方というものがありうるとぼくは思いますね。いま全国に11カ所、軍事基地として米軍が使用しているゴルフ場があります。そのうち半分はぼくはそれで解決がつくと思いますね。厚木の飛行場の滑走路の中にゴルフ場があります。滑走路が解除にならない限りそれはだめです。そういうのはこんな形の交渉では解除が不能でしょうけれども、11カ所のうち5、6カ所は、私はそういうやり方でいけば解決できると思います。

潮見 昭和飛行機でしたか、接收解除の訴訟を起こして一審で勝った事例がありましたね。結局示談になったようですが。

飛鳥田 訴訟というのは非常に時間がかかるんですよ。最高裁まで持っていくのに4、5年要するでしょう。4、5年をわれわれは看過できません

ので、なるべく早くとなると、いまのような近道を通る形になりますね。訴訟をやれば勝つ自信はありますが……。

5———上瀬谷通信基地の解除

《住民と行政が一体》

潮見 いま横浜で問題になっている上瀬谷通信基地の問題はどうですか。

飛鳥田 電波障害が起こるから、非常に広範囲の第1ゾーンとか第2ゾーンとか、接收されていないところに建物を建てちゃいかぬ、という制限があったのです。この制限は、基地としての制限ではなくて、施設庁が個々の所有者と不作為を内容

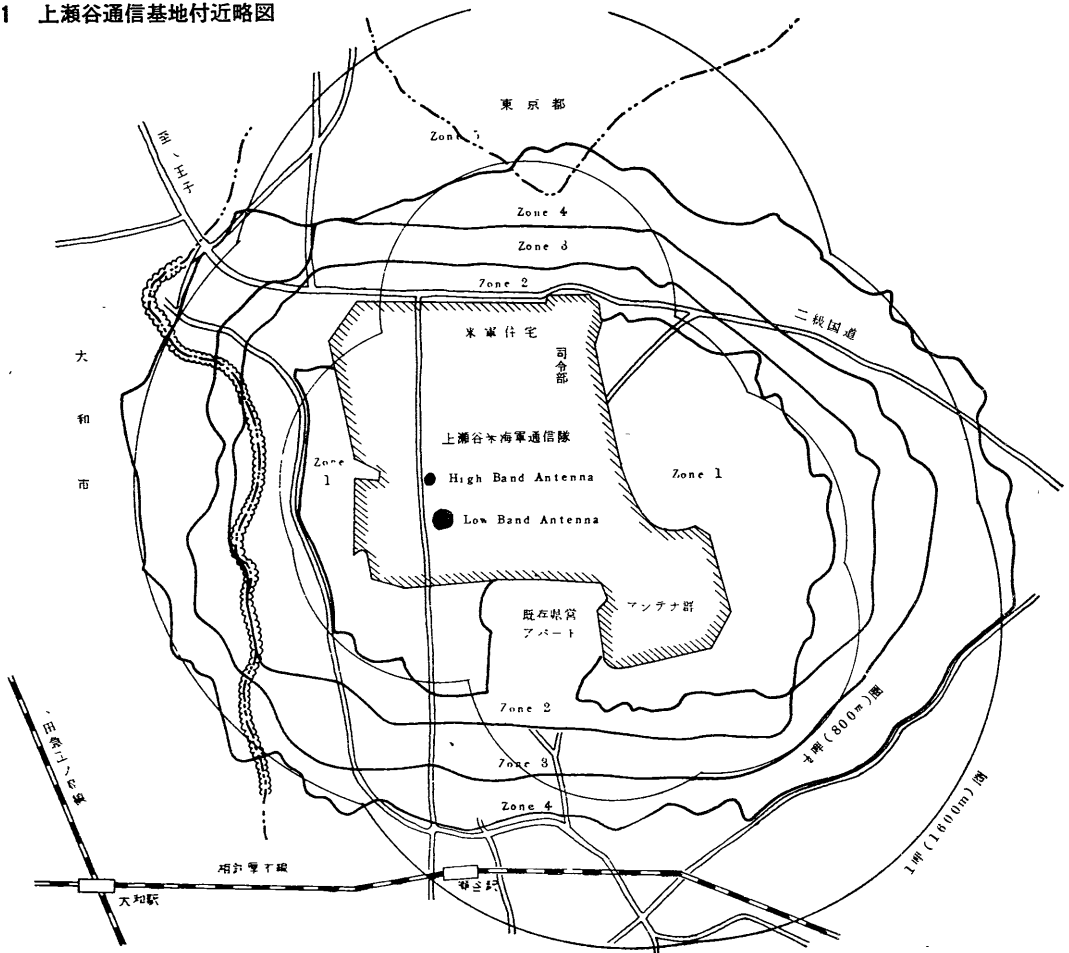
とする民事契約を結んで、ずっとやってきたわけです。それを住民に建築許可申請を出すようにすすめて出させた。そして山本博弁護士に横浜市から正式に、横浜市がはたして建築許可を拒絶できるかどうかという法律上の鑑定書を出してもらいました。

それで提出された鑑定書を新聞に発表しますと、やはり世論が起きます。この鑑定書は明らかに横浜市は建築許可を拒否できないという結論です。そこで施設庁が非常にあわてまして、米軍と交渉して、その部分は制限を取り払ったのです。

潮見 私、この鑑定書を拝見して、たいへんよくできた、いかにも法律家らしいきちっとした鑑定書で感心しています。

飛鳥田 それでかなり押せましたね。そういう押

図1 上瀬谷通信基地付近略図



し方もあるのです。ですからそのところどころに応じた押し方で、テクニックを弄している。しかしそのテクニックにおぼれずに、大衆と直結した形でそのテクニックが出てくるのが大事だとぼくはいつでも思って、またそういうふうに行っているつもりなんです。今度の場合も何10件か、全部建築許可の申請を出させておいて、その鑑定を求める。だから土地の所有者と私たちの共同作業になる。そうすると米軍のほうもいうことを聞かざるをえない。しかし、そういうテクニックではせとぎわまでは行けるが根本的な解決ではない。その点は限界を知っていないとあぶない。技術屋になってしまいますからね。

潮見 この上瀬谷ですが、いまほどの程度解除されているのですか。

飛鳥田 47件の申請で全部建築を許可しました。ただ、あとが困っちゃうのです。申請書を出させて、それを取る。しかしみんなの申請書というのは、マッチ箱のような家をぼつぼつ建てるといふ申請書なんです。本来ならばそこは都市計画をして壮大なものをやるべきなんです。それで困ってしまった。いま次の手を差し控えているのです。市の計画担当者にあの一帯のきちっとした都市計画を立てろ、といっている。上瀬谷一帯が横浜市の穴になっている。比較的都市計画がおくれている部分なんです。それを大急ぎで計画を立てろ、その計画に従って次の手を考えようといっているのです。都市計画という点からいうと、建築許可申請戦術はよし悪しだったんです。

潮見 上瀬谷基地は将来としてはどう立ち退かせようと考えておられるのですか。

飛鳥田 今いったようにまず都市計画を立てて、上瀬谷の基地を接収部分だけにして、それ以外のものは整備するというのが第一段階ですね。それから上瀬谷基地を移動させる運動になるんだらうと思います。

潮見 上瀬谷の通信基地は、まわりの制限をしている民事契約がすべて解除されて裸の基地だけになったら、おそらく機能喪失で引っ越さざるをえないんじゃないですか。

飛鳥田 しかし、あそこの設備を技術的にもっと高度化すれば、ある程度存続可能かもしれませんね。ですがおっしゃるように、基地を裸にすれば80%はこっちが勝ったようなものです。われわれの運動としては、いきなり撤去といっても、あそこはなかなか大衆運動ができないところですから、段階的な撤去を求める運動になるでしょう。

6———横浜ノース・ドックの場合

《真実でアピールせよ》

潮見 先ほど出たノース・ドックの問題はどうでしょうか。

飛鳥田 ノース・ドックは日本に駐留している米軍の補給基地ですから、アメリカから持ってきた物資をここで陸揚げして、日本全国にさばっていくんです。横浜は鉄道網がありますから。横浜でないとまずいと彼らはいうんです。鶴見の操車場があるのであらゆるところへ貨物が行けますからこの横浜は彼らにとっては非常に魅力があるのです。東京より魅力がある。彼らとしてはなかなかこれは放すまいと思います。ここは7バース<係船場>あるのですが、ぼくらのほうで7バース全部は要らないじゃないかといって、あいているときは横浜市の指定する船にお貸ししましょうという契約をしましたが、事実上はあまり使っていません。

潮見 このノース・ドックが基地になっているということで、横浜港の機能は相当阻害されているのですか。

飛鳥田 いや、それほどではありません。別の埠

頭を代替につくりましたから、あればなおいいというだけです。これによって横浜市の機能がものすごく阻害されているとはいえないでしょう。あればお待ちしている船が着けますから、あるにこしたことはありませんが……。

この点、どうも反対運動をやる人はオーバーにものをいい過ぎるのですよ。誇張してものをいう。その誇張していったことが向こうにすなおに届かないという形になる。また市民の中にもその誇張に耐えかねて、心ならずも反対の側に行っちゃう人がある。

潮見 私もよく基地を歩いていて、それは痛感するところですね。

飛鳥田 私はこの横浜ではいつでも真実のこしがいっちゃんいけないというんですよ。誇張すれば信用がなくなる。やっぱり信頼感ですからね。少なくとも事実をいってきなさい、さらに、その上にちゃんと都市計画なり何なりをつくって、そういうものを自分でつくりなさいというんです。たとえばおれの土地を接收されたんじゃたまらぬといういい方じゃなしに、おれはここに5階建てのものをつくるんだ。それでこういうふうになるんだといいなさいと、いつもいうんです。あまり誇張しますと、特に横浜のように市議会が保守、革新入り乱れて多党化しているところでは、基地問題について全会一致をとれないのです。誇張はいかんとぼくはいつもいいます。

潮見 それは市議会だけの問題じゃなくて私は基地反対運動全体を通してそういう感じを持ちますね。事実で押していかないで、妙にプロパガンダが先に立つと、結局あとで足をすくわれるというか、住民のあいだに浸透していかないですね。

飛鳥田 そうなんです。ながい定着力を持てません。

潮見 この点は、市長として実際を見ておられるの貴重なご指摘だと思いますね。

飛鳥田 横浜は明治以来の対米貿易港で、いまでも横浜の貿易の50%がアメリカ向けですからね。この港から上がってくるのはみんなアメリカ人だと思っています。だからドイツ人をつかまえて英語で話しかけちゃったりする。実は、横浜では、アメリカ人は悪人なりという大前提が成り立たないのです。北海道のすみだとか、どこか地方に行きますと、まだ毛唐、夷狄という観念が前提にあるでしょう。ですから、ふてえ野郎だとすぐ出るのは、横浜では個々のアメリカ人の悪口をいう形では基地運動が盛り上がりません。これは横浜的な状況ですが、しかし政策としての帝国主義は困るのじゃないかという話でいかないとだめですね。鬼畜米英じゃだめなんです。

潮見 それもまた非常に重要なことでしょうね。

飛鳥田 とくに横浜はそうです。ぼくなんか基地の司令官がパーティーをやると、喜んで出かけていきます。ごちそうにもなります。そのかわりお返しにぼくのほうでパーティーをやります。いままでも横浜では市長さんが出ていって、向こうの連中と仲よく話すなんてことはなかったんですよ。まえの保守の市長さんはお年を召しているものですから、めんどろんでしょう。ぼくはわりとのん気ですから、「飲みに行こうじゃないか」なんて。最初の一軒は君、次はぼく、兵隊勘定でいこう。市民からあとで文句をいわれないように、小さな金の問題でもきちんと用心しながら、かなり仲よくやっています。それだけの信頼感があります。そのかわり絶対に嘘をつかないことですね。飛鳥田は社会党でものすごくふてえやつだけれども、しかしいうことにうそはないということだけは彼らのなかの定評にさせないと、話が進まないのです。

潮見 もう少し広く神奈川県を見た場合、神奈川県の中には横浜市だけではなくてたくさんの基地があるのですが、その各市町村と連携して基地

問題について考える協議会というものはあるのでしょうか。

飛鳥田 あります。県の主催で基地連絡協議会というのがありまして、そこによく集まってお互いにやり方を相談したり、一緒に陳情に行ったりすることはあります。

人口500万の神奈川県に基地を置くことは好ましくない。神奈川県から基地を取り除いてほしいという陳情書を出そうというので政府に持っていきました。

潮見 やはり革新市長のところと保守系市長とでは、ニュアンスが相当ちがいますか。

飛鳥田 ええ、押し方が違いますね。さきほどお話ししたようなテクニックを保守系の市長さんは使いません。知事さんが向こうの司令官と交渉なさる程度でしょう。大衆と共同作業でという面はないですね。なるべくあなた方は黙っていらしゃい、私がかかわって交渉してあげますからという請負交渉ですね。それがずいぶんちがうように思います。

潮見 市長が、テクニックで基地を取り返すということも、やはり日本全体の世論と関連しているわけですね。

飛鳥田 そうです。ですからぼくらがここで取ったと自慢できないわけですよ。日本全体の世論の方が一番の根本的なあと押しになり、それから土地の人たちの運動が次のあと押しになり、そしてこっちもある程度行政的にがんばる、この三つが一つになって取れるのだらうと思います。ここでぼくだけの功績だなんて、とうていおもえませんね。

潮見 最後に、横浜の今後の基地問題の見通しについてお話しください。

飛鳥田 横浜市の問題には、ある意味で特長があります。砂川の、あるいは成田の、火のような燃え上がり方はここでは持たないんです。ほとんど全面接収に近いところでやってきたし、もっと前に100年の対米関係があります。ある意味ではここは基地ぼけがしているぐらい、基地に対して憎悪心を持たないんです。砂川の盛り上がりもここに求めてもおそらく不可能でしょう。ラディカルな、イデオロギッシュな闘争にならないという一つの特徴があるわけです。したがって向こうとの交渉もしいいわけです。それに切実にここに下水処理場をつくるとか、公園をつくるんだとか、大衆に接したところから大衆の接収解除運動が出せるわけですね。ラディカルなものがないから、のんびりと出せる。これはアメリカに対する憎悪心から発するものじゃなくて、自分の生活から来るものなんです。公園がほしいとか水洗になりたいとか。だから比較的着実な、地についたものになります。ですから党派を越えて、社会党であれ、自民党であれ、公明党であれ、みんなその中に入ってこれる。そういう点が横浜の基地運動の地域的特殊性かもしれません。よそではこういうことはないんじゃないでしょうか。

<飛鳥田一雄：横浜市長>

<潮見俊隆：東京大学教授>

7———大衆に密着した基地解除闘争

《各都市の特殊性を生かせ》